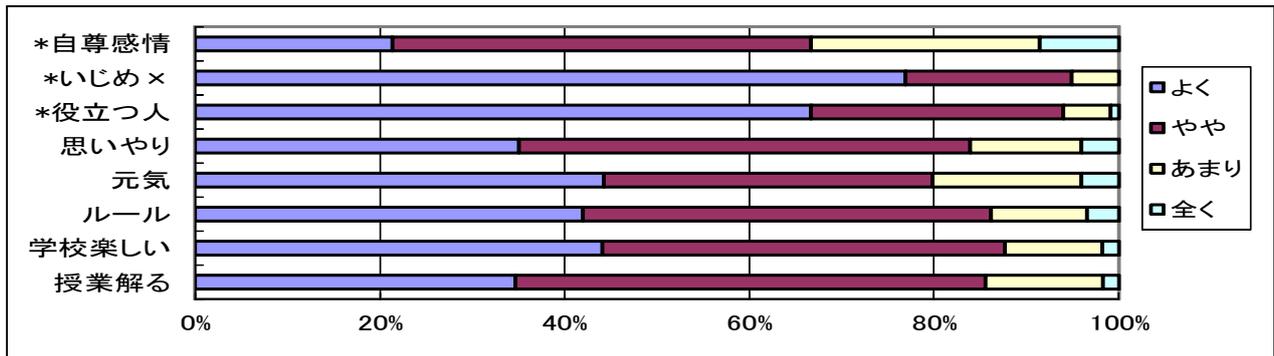


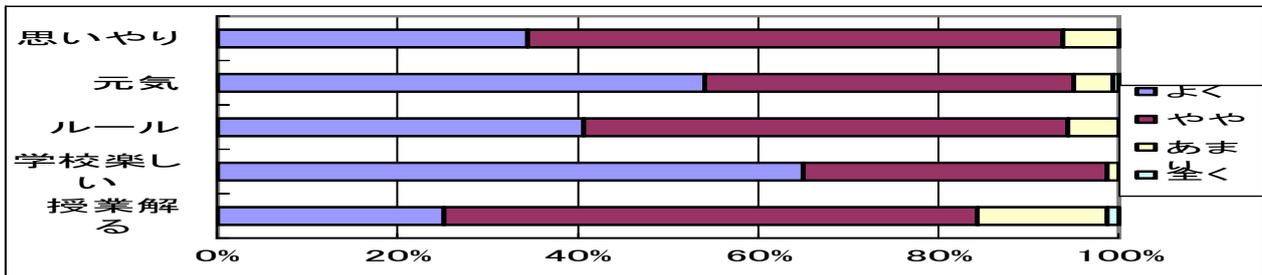
教育に関するアンケート結果から

7月にお子様と保護者の皆様を対象に学校教育に関する調査をお願いしました。ご協力ありがとうございました。今回は、学校の「安全・安心」に関連する項目を中心に報告させていただきます。子どもたちについては、「自尊心」「いじめについてどう考えているか」「相手への思いやり」「自分は元気か」「授業はわかるか」など8項目。保護者の方の関連回答項目を5項目挙げさせていただきました。全体的には「よく思う」「そう思う」という肯定的な回答が80～90%を超える評価をいただくことができました。しかし、子どもたちの結果については、「自分にはよいところがある」という項目については60%足らずで、1/3を超える子どもたちが自己有能感、自尊心が十分感じられないという結果でした。背景には、授業などの学習活動、学校での過ごし方に満足を感じるということに課題が想定され、それらは教職員の「学級作り:仲間づくり」、「授業の充実:わかる授業」の更なる努力が重要であることを示しております。いろいろな活動を通して心を育みながら、成功体験を重ねていけるように、具体的に考察し、2学期以降の教育活動に活かし改善に努めたいと考えています。また、紙面の関係で示せませんでした。昨年同様にテレビやゲーム、インターネットに使う時間が長く、睡眠時間が短いのが大変気にかかります。学校でもいっそう子どもたちの意識づけの取り組みを考えていきます。ご家庭でも併せて「早寝、早起き、朝ご飯」の視点から生活リズムの見直しについて今一度話し合ってください、ご協力いただきますようお願いいたします。

児童のアンケート結果から



保護者のアンケート結果から



校長室からこんにちは

【校報9月号】

「自分を信じる」～子どもたちはアスリートだ～

校長 小西 喜朗

「志」。一学期の終業式でことばの意味を夏休みに考えてくるように話しました。二学期の始業式で「自分を信じる」「仲間を信じる」。ということをお話しました。二つの話の接点は、8月のリオ・オリンピック、それに続く9月のパラリンピックです。TVの映像を見て、全うに感動しました。その中で競技を終えたアスリートのことばの多くは、「最後、本番で信じたのは、苦しい練習に耐えてきた自分である。」と・・・、「また、共に頑張ってきた仲間を信じるのが、最後の最後に、今の結果に繋がった。」と・・・、目標という「志」がその心を支え、また苦しい練習(想像以上の)に向けさせたのだと思います。

子どもたちも夏が終わって、今、運動会の練習に取り組んでいます。「最後、本番で信じられるのは、心の支えになるのは、何でしょう。今まで頑張ってきた自分やその仲間たちである。」ということをお話しました。

練習を通して、自分や仲間をお互いに信じる気持ちが一つになった「心を一つにした」すばらしい運動会ができることを期待しています。それぞれの体験が年齢を経て積み重なっていく。そのことが、子どもたちの心をたくましくし、次の目標に向かう覚悟になっていくのではないかと思います。子どもだけでなく教職員も子どもたちにしっかりと学習や、活動をさせていく覚悟を持って一丸となって臨んでいます。今年の運動会のテーマは「心は一つ～みんなの力で最高のぶたい～」です。子どもたちは、自分の目標を決めて練習に励んでいます。限られた時間の中で、練習から帰ってくる子どもたちの表情の中に凜としたものを感じます。

二学期が始まり、これからも毎日の登下校でスクールガードの方々をはじめ多くの地域の方のお世話になります。子どもたちが地域で生まれていることに感謝申し上げます。ありがとうございます。今後とも子どもたちの見守りをよろしく願いいたします。

